

ゆずり葉



2021年11月25日発行
鴨居地区社会福祉協議会
発行責任者 小池 邦仁
第70号 編集責任者 鈴木 正雄

鴨居福祉まつりに際して

鴨居地域ケアプラザ 所長 長谷川政樹

第21回鴨居福祉まつりが21回目にして初めて、鴨居地域ケアプラザで開催されました。今年は、新型コロナウイルスの影響で例年と会場が異なった為、役員を始め、鴨居地区社会福祉協議会の皆様には、中々思い通りにいかず、ご迷惑をおかけした部分もあったかと思えます。駐車場の問題や各部屋の人数制限などご協力頂きありがとうございました。当日は天候にも恵まれ、大変多くの方にご来館頂きました。こんなにケアプラザに人が来館したのは約2年ぶり！久しぶりに会う方々が再会を喜び、おしゃべりに花を咲かせ、笑顔で帰られていく姿は懐かしくもあり、とても感慨深いものがありました。

私たちも会場の利点を活かし、福祉用具体験やベジチェック等、職員も皆様と楽しませて頂きました。私のベジチェックの結果はひ・み・つです。デイサービスの利用者様も郷土芸能を楽しまれ「涙が出るね」と、喜ばれました。

鴨居地域ケアプラザは鴨居地区の福祉の拠点です。これからも皆様のお役に立てるよう、施設の維持管理を始め、職員一同知恵を出し合い、身体を使い、精一杯頑張っていきますので、今後も上手に鴨居地域ケアプラザをご活用頂ければと思います。



第21回 鴨居福祉まつりに参加して

鴨居囃子連中 代表 柳下充

これ以上はないという晴天の中、福祉まつりがスタートし、同時に鴨居囃子の演奏と踊りも始まりました。鴨居囃子では、鴨居・緑両小学校でのお囃子授業からお囃子を習いたいという希望者が増え、現在、小学生だけでも12人が在籍します。熱心なお弟子さんが揃い、コロナ禍においても感染対策を施しながら、ほぼ毎週日曜日に稽古を積んできました。

しかし、各種イベントの中止により、コロナ以前と比べて演奏機会は激減しました。

そのような中、今般、福祉まつりの開催にあたり終日の演奏の機会を与えていただき、一同喜びに堪えません。鴨居囃子も精一杯演奏しました！獅子舞を見たデイサービス利用者の方から「涙が出ちゃうよ〜」「ウキウキした！」と感想をいただけたことは、本当に励みになります。

お弟子さんの一人が言った「地域の皆さんに鴨居囃子の演奏を聴いてもらえてうれしかった。そして鴨居をもっと好きになった。来年も是非開催して欲しいです。」という思いは、鴨居囃子連中の総意です。

私たちは、今後とも鴨居囃子の伝承に精進を重ねて参ります。鴨居地区社協はじめ協力団体の皆さま、ありがとうございました。



鴨居福祉まつりに参加して

鴨居地区社協 書記 服部真人

昨年度に社協執行役員メンバーとなり、最初の大きな仕事は「ステイホーム鴨居福祉まつり」の発行でした。福祉まつり・鴨居の福祉を支えてきた団体の方々を改めて一つ一つ取り上げさせていただき、各団体の活性化や地域との交流をより深めるキッカケになれば、という取組でした。コロナ禍の中でも、「繋がり」を続けるためのチャレンジだったとも思います。

今年の福祉まつりも未だ限定的な開催形式であり、お会いできたのも一部の方々でしたが、その中でも多くの笑顔や、交流の姿を見られる事ができました。やはり、リアルな交流は良いですね。

また、昨年のお冊子作成の活動の中で、改めて各団体の皆様を中心とした「地域の力」を感じ取りもしました。やはり、「鴨居の地域力」は強い！

今回は初めての形式ということで、手探りで進める部分もあったと思うのですが、当日は参加いただいている方々が、上手く自主的に動いていただけ、とてもスムーズに運営できたと思います。これも「地域力」ですね。来年度は例年通りの形式で皆様とお会い出来ること、リアルな繋がりを持ち、「地域力」をより活性化出来る場を持てること、を楽しみにしています。

第21回「鴨居福祉まつり」について

㈱ツクイ 横浜鴨居 上梶麻紀子

令和2年度の鴨居福祉まつりは新型コロナウイルス感染の懸念から中止になり代わりに冊子「ステイホーム鴨居福祉まつり」が作成され配布されました。人のぬくもりや思いやりが伝わる冊子で皆様の思いが伝わりました。

今年は規模が縮小されていて感染予防対策など制約はありましたが、人のぬくもりや思いやりが直接伝えられる念願の福祉まつりが開催され、参加をさせて頂いて皆様とふれあえたことに一番の喜びを感じております。

体験コーナーでの車椅子や電動ベッドでの体験では興味深く真剣な姿を拝見させて頂いたり、介護についての相談コーナーでは両親の心配をされている皆様、お嫁様など皆様の福祉・介護に対する認識、意識の高さには驚かされました。

私たちツクイは地域の皆さまに寄り添いながら来年も一緒に福祉まつりに参加していきたいと思っております。



初めての「ベジチェックOR」

鴨居地区保健活動推進委員会 櫻井奈穂

長く続くコロナ禍…保健活動推進委員会として感染に気をつけながら、どのような活動ができるのか？悩み模索していました。そんな折に「ベジチェックOR」のことを知りました。

厚生省では成人1日あたり350g以上の野菜の摂取を推奨していますが、意外にも日本人は野菜不足の傾向にあるといわれており、平均して1日当たり約60gの野菜が足りていない状況です。

「ベジチェックOR」は保活としても初めての試みでしたが、当日は100人近くの方々に体験していただきました。短時間で簡単な計測で、日頃の野菜の推定摂取量を数値で「見える化」することで、食生活をちょっと見直してみるご提案をすることができました。これまでとは違ったスタイルでの健康チェックでしたが、今後も鴨居地区の皆さまの健康づくりのお役に立てるような活動を続けていきたいと思いを新たにしました。

鴨居福祉まつりに参加して

フランスベッド㈱ メディカル青葉(営) 仁木聡

雲一つない晴天の中、「鴨居福祉まつり」に参加しました。コロナ禍、初のイベントと伺っており、入場制限の感染対策を行いながらの開催でしたが大盛況だったと思います。

私は、その中で福祉用具の展示体験ブースを担当しました。当社の新型介護ベッド「離床支援マルチポジションベッド」をはじめ、電動車いす「WHILL」、ワンハンドブレーキ車いす「テッタラ」等を展示し来場者の方々にご説明し、体験をして頂きました。お立ち寄りいただいた皆様方に共通して感じたことは、「意識の高さ」です。説明中に、「実家の父母に」や「近所の〇〇さんに」といったお話が多く聞こえ驚きました。同様のイベントに参加すると「私はまだ」と言ったことが大いに懸念されがちですが鴨居地区の皆様は積極的に体験いただきました。私たち説明員が休憩も取れないほどでした。素晴らしいと思います。最後に、このようなイベントに参加でき、とても嬉しく思います。「知る」ということは非常に大切です。ご参加いただいた皆様方が今回の体験で一つでも知識として身に付けていただければ幸いです。ありがとうございました。



おまつり風景



プレゼントのバッグ、好評でした！



～編集後記～

本号は鴨居福祉まつり特集です。例年とは異なる形での開催でしたが、福祉の歩みを止めない試み、とても盛況でした。ありがとうございます！

